

2020 年度「経済学史」第 4 回ミニットペーパー 2021 年 1 月 13 日

・ケインズの理論において人々の期待という不確実性への対処法として金融政策と財政政策が取り上げられていましたが、この対処法は不確実性そのものには対処できなくても不確実性-->不況のメカニズム中にある利子率や投資を操作すれば結果的に不況の解消につながるから有効であるという解釈でよいのでしょうか？

・フリードマンの論において、 $P/wage$ は一定であるとありましたが、これは $P/wage=1$ という解釈でしょうか。もし $P/wage=a(a>1$ の定数)以上という解釈なのであれば、結局 $P-wage$ 分が利潤となり、それらが投資に回され、生産性が向上し、生産量が一定となることはないのではないかと感じました。私の勉強不足でしたらすみません…。

・今回の範囲の話ではないのですが経済学史について書いてある書籍を知りたいです。以前ガルブレイスの「経済学の歴史」を読んだことがあります、それよりも少し詳しく書いてあるものでおすすりできるものなどありますか。